

2025年5月の総評に代えて

○ 林 桂 ○

● azusa ● (京 都 府 23 歳)

手を振ってバンド解散する立夏

【評】プロのバンドではなく、アマチュアのバンドだろう。卒業や転職などで、バンド活動に一区切り付ける。そのコンサート。過度の思い入れのない「手を振って」がどこか爽やか。「立夏」も効果的。

● 林 みき ● (東 京 都 48 歳)

指切りの有効期限 夏祓

【評】子どもの頃の指切りだろう。「指切りげんまん嘘ついたら針千本飲ます」が約束の言葉。「拳万」「針千本」と約束を破ったときの厳しいペナルティを課しながら、その約束の有効期限について考えることはなかった。思いの中では一生くらいの気持ちではいただろう。その約束から遥か時間を隔てて、約束の有効期限を考える。多くはたわいないものであっても、時効にはなっていないかもしれない

い。「夏祓」との取り合わせが、なんとも
厳かでユーモラス。忘れてしまった約束
や破ったままの約束の罪も、ここで一氣
に祓ってしまおうという魂胆であろう。

● 加那屋こあ ●（東京都 53 歳）

波
鏡
今朝の悲しみ
夏薊

【評】脚韻「み」を踏みながら行を跨いで
いる。かつ、「起承転結」の構造を意識し
て四行に書かれている。「転」の「今朝の
悲しみ」が効いている。一編に方向性を
与えている。「夏薊」の「結」も、「波」
「鏡」と遠く呼応する。

● ムクロジ ●（群馬県 17 歳）

短夜の本におさまる栞紐

【評】栞紐を本に納めるのは、読了か読書
の中断を意味しているだろう。読書に相
応しい「夜長」ではなく、「短夜」である。

● 奥井 健太 ●（滋賀県 22 歳）

霧吹きにサボテン育つタワーです

【評】タワーはタワーマンションの一室をいうのだろうか。サボテンの水分を霧吹きで補いながら、育てている。人工的な環境の中で、かつ人工的な育てられ方をするサボテン。時代の一典型を見ているようである。

● 塩本抄 ●（石川県 37 歳）

下り坂ゆけばあらゆる躑躅から、
まひるま、蕊を向けられている

【評】坂の両脇に植栽された躑躅の花。躑躅の花は上を向いて咲いているので、その花の蕊はすべて「作者」に向けられている。読点で挟まれた「まひるま」が、陰りのない蕊の姿をありありと想像させる。巧みな修辞だ。

● 深谷 健 ●（埼玉県 26 歳）

春光のいれものめいている校庭

【評】校庭は塀に囲まれているのが常だ

から、それを「いれものめいている」と見るのは不思議ではない。ただ、この「いれものめいて」で、そこに外から隔離され守られている子ども達の姿も連想させられる。

● 石村 まい ●（兵庫県 26 歳）

白ぶどうの部屋が一室あいている
岬のように夜をねむれば

【評】「白ぶどうの部屋」の意味を読み切れていない。ホテルや旅館の部屋の名前か、単に白ぶどうが置かれている部屋なのか。「岬のように」は「ねむれば」にかかるので、眠りの喩に違いないが、岬のような眠りの意味が判然としない。眠りから覚めると（あるいは眠ろうとすると）、たぶん隣室の白ぶどうの部屋が空室になっているということだろうか。分からないことだらけなのだが、この謎めいた部分も含めて、魅了されている。

● 松浦 やも ●（東京都 17 歳）

はつなつの
空腹のあるきびしさに
折畳み日傘やわらかく
反る

【評】「空腹のあるきびしさに」の一行が、作品に奥行きを与えている。青年にくる健康的な空腹感と読むのが一番かもしれないが、この一行で、夏の街頭風景が、青年には厳しいものに見えていることを知る。

● 自 才 ショウ ●（富山県 65 歳）

昆虫採集する為
南太平洋の島へ
行くことにした
自分に
途方に暮れている

【評】流石に南太平洋の島へ昆虫採集へ行こうなどと考えたことはないが、自分の後先を考えない行動計画に、身うごきできず「途方に暮れ」たことはある。多かれ少なかれ、誰にもあることだろう。それをここまでのスケールで書かれると笑いに転化する。この笑いで救われるのは、私だけではないだろう。

● 川上 真央 ●（東京都 18 歳）

星空のように瞳は
傷ついて
テディベアまだ
抱かれるかたち

【評】「星空」と「瞳」の組み合わせとなれば、「星空」は「瞳」の輝きの比喻かと早合点してしまいそうだが、「傷ついて」である。「瞳」の「傷」の喩である。テディベアを抱きながら育ってきたのだ。そのテディベアには長年の抱き癖がついたままである。過渡期を迎えた傷つきやすい少女期の巧まざる表現に敬服。

● 池田 彩乃 ●（青森県 35 歳）

泡に見る生まれて消える愉しみよ

【評】「淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどまりたるためしなし」（方丈記）のごとく、泡は儚いもののたとえが定番である。作者はそれを「愉しみよ」と価値転倒してみせる。見事。

● 背 腹 颯 太 ●（ 北 海 道 21 歳 ）

消 火 器 が 不 吉 で 電 気 を 点 け て 寝 る

【 評 】 幼 児 体 験 と し て 誰 も が 持 つ も の の よう だ 。 消 火 器 に 限 ら な い が 、 日 常 に あ る 見 慣 れ た も の が 突 然 不 気 味 な も の に 見 え て く る 。 特 に 夜 間 の 中 で は 、 一 層 不 気 味 だ 。 思 え ば 、 こ の よ う な 体 験 は 子 ど も に 限 っ た も の で は な い の だ ろ う 。

● 広 瀬 心 二 郎 ●（ 埼 玉 県 75 歳 ）

水 の に お い が す る ね と
妻 が 目 を 覚 ま す
武 蔵 野 の 五 月

【 評 】 郊 外 に 住 む 老 夫 婦 の 会 話 。 静 か な 生 活 ぶ り が う か が え る 。 「 水 の に お い が す る ね 」 が 秀 抜 。 長 年 連 れ 添 っ た 夫 婦 の 機 微 が 書 か れ て い る 。

● 五 十 嵐 武 月 ●（ 北 海 道 21 歳 ）

本 当 は 誰 も 好 き じ ゃ な い 君 の
ス テ ッ カ ー ま み れ の
ノ ー ト パ ソ コ ン

【評】ノートパソコンに様々なステッカーを貼っている友人。それは人間嫌いのバリアのようなものと作者は感得する。ステッカーは、自身のパソコン世界を封印する、言わば護符のようなものなのだろう。

● 牧角うら ●（東京都 29 歳）

磨かれた孤独のかたち
八朔を割れば
まぶしい真昼のきいろ

【評】八朔を「磨かれた孤独のかたち」という。割れば孤独の内実が鮮やかに広がる。「真昼の」の挿入句がイメージを広げる働きをする。

● 海沢ひかり ●（静岡県 31 歳）

初夏のプリクラ帳に君はいて

【評】初夏のプリクラに一緒におさまった君は今はいない。「君はいて」は現在の君の不在を確認する言葉だ。若ければ若いほど時間が過ぎるのも早く感じられるだろう。

● 秋 毫 ●（宮城県 19 歳）

空よりも
そこに浮いてる雲が好き
母親が好き
菓子パンが嫌い

【評】好きな「雲」と嫌いな「菓子パン」に挟まれた「母親が好き」の妙。朗らかなマザーコンプレックス宣言の赴き。菓子パン嫌いの子どもに育つには、愛情深い母親の食育があったに違いない。